

堀 輝三\*・谷本静史\*\*・千原光雄\*\*： 本邦沿岸における  
プラシノ藻の分布について (2)

Terumitsu HORI\*, Shizuhumi TANIMOTO\*\* and Mitsuo CHIHARA\*\*:  
Geographic distribution of *Platymonas* and *Prasinocladus*  
on the coast of Japan (2)

前報<sup>1)</sup>では本邦太平洋沿岸におけるプラシノモ属 *Prasinocladus* とプラチモナス属 *Platymonas* の分布状況について報告した。本報では、主として日本海沿岸について行った採集調査の結果を報告するが、その後に太平洋沿岸で新たに生息が確認された地点も併せて記す。

青森県鯨ヶ沢～福岡県北九州市間の日本海沿岸を1974年10月, 12月, 1975年4月の3回にわたって採集調査した。採集方法および分離・培養法については前報<sup>1)</sup>で述べた通りである。

プラチモナス類の分布について Fig. 1に, 本邦日本海岸および太平洋岸に沿ったプラチモナス類およびプラシノモ類のメンバーの生息が確認された産地を示す。図中の白丸(○)はプラチモナス類の, 半黒丸(◐)はプラチモナス類とプラシノモ類との, 黒丸(●)はプラシノモ類のそれぞれの生息地を示している。

プラシノモ類の分布について Fig. 1に示す通り新産地として和布刈(福岡県), 須佐(山口県), 塩戸(秋田県)の3ヶ所が確認された。いずれも *Prasinocladus marinus* と同定された。現在までのところ, プラシノモ類の日本海沿岸部における産地は, 千原・吉崎<sup>2)</sup>による対馬および今回の3地点である。

今回の報告によりプラチモナス類の新産地として太平洋岸6地点, 日本海岸24地点, プラシノモ類3地点が生息地として追加されたが, これを前報<sup>1)</sup>で報告した生息確認地点と合わせると, 本邦沿岸部におけるプラチモナス類の産地は77, プラシノモ類の産地は19となる。

次の諸氏はプラチモナス類の採集資料, 生息情報を提供して下さった方々である。記して感謝の意を表す。No. は提供者の採集地点を示す。

- 1 渡辺信氏(北大・理・植物; 東大・応微研); 10 吉崎誠氏(東邦大・理・生物);

\* 東邦大学理学部生物学教室 (274 千葉県船橋市三山町 542)

Department of Biology, Toho University, Funabashi, Chiba, 274 Japan.

\*\* 筑波大学生物科学系 (300-31 茨城県新治郡桜村大字妻木字天久保)

Institute of Biological Sciences, University of Tsukuba, Ibaraki, 300-31 Japan.

Bull. Jap. Soc. Phycol., 24: 146-148, Dec. 1976.

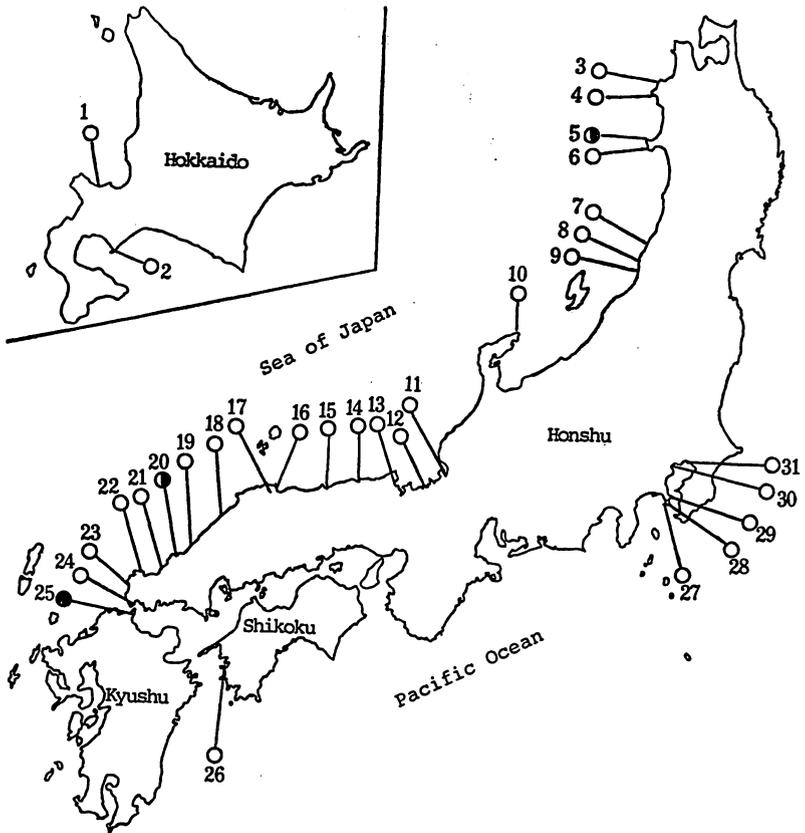


Fig. 1. Map showing localities where *Platymonas* and *Prasinocladus* species were collected. The figure in parenthesis after each locality indicates the number of *Platymonas* strain isolated. 1. Oshoro (1); 2. Muroran (1); 3. Fukaura (2); 4. Iwadate (2); 5. Shioto (3); 6. Kanegasaki (2); 7. Atsumi (2); 8. Itagai (2); 9. Kuwakawa (2); 10. Takaya (1); 11. Tsuruga (1); 12. Takahama (2); 13. Amanohashidate (2); 14. Kasumi (1); 15. Aoya (1); 16. Mionoseki (1); 17. Honjyo (3); 18. Nima (1); 19. Hamada (1); 20. Susa (1); 21. Hagi (1); 22. Oodomari (2); 23. Kogushi (2); 24. Dannoura (1); 25. Mekari; 26. Uwajima (2); 27. Jyogasaki (1); 28. Kenzaki (1); 29. Kannonzaki (1); 30. Hamarikyū (1); 31. Yatsu (2).  
○: *Platymonas*; ◐: *Platymonas* and *Prasinocladus*; ●: *Prasinocladus*.

26 原慶明博士（筑波大・生物科学系）；27～30 今井常彦氏（東邦大・医）。

この調査は日本学術振興会による日米科学協力研究 5R052（代表者・筑波大・生物科学系，千原光雄）および文部省科学研究費，課題番号 848014（TH）の一部を使用した。

### Summary

In the surveying study of geographic distribution of the prasinophycean algae along the coast of Japan, we have confirmed 32 localities as the growing sites in addition to the localities cited in a previous paper (1975). Of these new localities, 30 are for *Platymonas* and 2 for *Prasinocladus*.

### 引用文献

- 1) 谷本静史・堀輝三 (1975) 本邦沿岸におけるプラシノ藻の分布について (1)。藻類, 23: 14-18.
- 2) 千原光雄・吉崎誠 (1970) 対馬沿岸の海藻相と海藻群落。国立科博専報, 3: 143-158.

□ 柳田友道: 赤潮. i-xii+198 pp. 1976. 講談社. 東京. 1700円.

水界生態系の栄養構造と水域の栄養環境の概説に続き、赤潮について、その歴史と現状、いくつかの地域における発生の模様を述べ、次いで赤潮生物の分類、生理、生態を、水産学、生物学あるいは海洋学など、異なる学問分野で得られた多数の研究成果を踏まえてわかりやすく記述している。この章は著者が本書で最も重点的に取扱ったといわれ、記述も約100頁に及ぶ。さらに、終りに近く、赤潮の被害とその対策などの章があり、最後に、赤潮を理解するためのおもな参考書、文献48が挙げられ、読者の便に供されている。赤潮について、従来の研究はどのように行われてきたか、現在のわれわれの知識はどの程度であるか、これからの研究はどのように進められるべきであるかなど容易に理解させてくれる。異なる学問分野で、特有の手法で研究され、独特な表現で発表されてきた赤潮についての知見を、取り纏めて整理し、同一基盤の上に組立てなおし、理解しやすい形で読者に提供したいと望んだ著者の意図は成功しているといつてよい。なお1章は市村俊英氏、5章の一部は関文威氏がそれぞれ分担執筆している。

(筑波大学生物科学系 千原光雄)